

大学生の喫煙に関する研究

西本 任志 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 高橋 正行

キーワード：大学, 敷地内禁煙, 受動喫煙, 喫煙率

1. 緒言

喫煙は世界的に最大の健康問題となっており、世界や、日本でも様々な対策が取られている。健康増進では、公共施設での受動喫煙防止が義務付けられ、様々な施設で禁煙・分煙となった。また、学校もその対象であり、小・中・高では、ほとんどの学校で敷地内禁煙となっている。

しかし、大学では敷地内禁煙を実施している学校はまだ少ない。大学には未成年が多いが20歳以上の学生もいることから敷地内禁煙を含めた受動喫煙対策は遅れている。また、大学生の喫煙率についても問題となっており、大学在学中に喫煙率が上昇することが分かっている。さらに喫煙者の多くが大学時代に喫煙習慣を獲得することから、大学における喫煙対策がとても重要である。

そこで本研究では、大学の敷地内禁煙等の喫煙に関する対策について調べることを目的とする。今回の研究で何が問題であるのかの問題点を抽出し、今後の基礎資料としたい。また、地域別など様々な分野に分け、喫煙対策に関連性があるのかも調べる。

2. 研究方法

近畿地方に存在する大学にアンケート調査実施した。喫煙に対するアンケートを作成し、近畿地方存在する大学200校に郵送し、返送は61校であった(回収率約30%)。

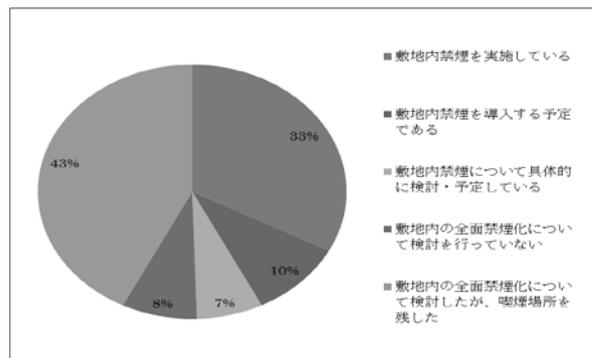
分析方法は Excel, X²乗検定を用い、項目ごとに%を出し、グラフを作成した。

3. 結果と考察

アンケート調査の結果、敷地内禁煙を実施してい

る大学は約3割であり、まだまだ浸透していない。しかし、導入予定、検討中を含めると約半分ののぼり、敷地内禁煙に関して意欲的である。都道府県別では、兵庫県が敷地内禁煙率約7割と一番高い。設置母体別では、国公立大学の方が私立大学より敷地内禁煙率は高い。大学の規模別では、規模の小さい方が敷地内禁煙率は高い。学部別では、医療系の大学が敷地内禁煙率約7割と一番高く、有意な差も見られた(p=0.01)。

図1：全大学の敷地内禁煙について



4. まとめ

大学の敷地内禁煙はまだまだ浸透していなかったが、敷地内禁煙について前向きな学校は多く、今後、ますます増加することが期待される。その他の喫煙対策については、まだまだ徹底されていなく、喫煙対策についてしっかり向き合い考えていく必要がある。喫煙・禁煙に対してしっかり対策をとることで、敷地内禁煙は良い方向へと進んでいくと考える。

参考文献

家田 重晴(2013)：日本学校保健学会

「タバコのない学校」推進プロジェクト 大学の禁煙・分煙